

古河歴史見聞録

書と篆刻のまちをつくる

書人・立石光司の仕事

平成3年春、古河市に日本で初めての篆刻専門の美術館が開館しました。日本の書道人口が減少傾向といわれる今日、篆刻美術館は著名な篆刻家の作品展示の他にも、小学生古文字書道展や中学生卒業記念篆刻展を開催するなど、地域に根ざした識字運動の拠点となつていきます。今回は、篆刻という洗練された芸術を普及させ、書道文化が生き続けるまちづくりのきっかけをつくった人物、立石光司について紹介します。

中央書壇で活躍

立石光司は昭和2年古河生まれの書家。同8年6歳の時、古河の書家で刻字の発展に貢献した大久保翠洞に師事して書を学びます。才能は早くから開花し、同18年16



▲立石光司
撮影：猪瀬陽子

歳で興亜書道連盟展に出品し、青少年の部・内閣総理大臣賞を受賞。この作品が昭和の三筆といわれる書家・手島右卿の目に留まったことが契機となり、同24年右卿に師事します。27年右卿の創立した独立書道会(独立書人団の前身)の創立会員となりました。その後も独立書人団副理事長・事務局長を歴任、晩年まで組織の中枢を担います。また、毎日書道会評議員を務め、日本書道専門学校教授、東京藝術大学美術学部講師など指導者としても活躍しました。

古河の文化発展に尽力

中央書壇で精力的に活躍する立石氏でしたが、その生活と活動拠点は古河にあり、地元文化発展のために力を注ぎました。市内で木工所を営みながら、古河の篆刻家生井子華、師の大久保翠洞と共に古河地方書人会を設立。古河市文化協合理事長を務め、書道団体鳳龍会を設立するなど、市の文化振興と書の普及において指導的役割を果たしています。

篆刻美術館設立の提言

さて、平成初頭、かつて文化協合理事長を務めていた立石光司に、古河市長から次のような相談がありました。それは、大正9年建築の市内に残る石蔵を、美術館として利用保存する構想があるが、どのような美術館の設置が望ましいかというものでした。このとき立石氏は「篆刻」専門の美術館を構想します。古河は日展評議員・参与を務めた篆刻の大家、生井子華が生涯を過ごしたまちです。篆刻作品を収集展示することで、古河ならではの美術館に仕立てたいと願ったのでした。

立石氏は、晩年の子華に「一人でもいいから同じ町の人間に自らの篆刻作法と心得を伝えたい」(『日本経済新聞』平成3年)と頼まれ、篆刻の世界に足を踏み入れ教えを受けていました。篆刻美術館設立の構想について「古河の人間として教えを受けたのだから、生井先生の思いを古河の人びとに伝えるのは私の役目という気持ち

もあった。」(同)と語っています。

この提言はすぐに採用されました。氏は開館までのわずかな期間、さまざまな書道関係者と相談を重ね、作品や文献資料収集のため協力を依頼して奔走。篆刻界のほぼ全面的な協力を得て、当時国内唯一の篆刻美術館が開館することとなったのでした。

古典臨書から真の書作へ

古河の書道文化発展に大きく貢献した立石光司は、自らの書作においても研鑽を怠ることはありませんでした。「臨書を『行』として手習いをしていくことが書の道である」と語り、晩年は創作の基盤となる古典臨書に没頭します。多彩な書作品を生み出しましたが、さらなる展開を見せる矢先、病に倒れ、平成14年、75歳で世を去りました。

古河歴史博物館学芸員 倉井直子
企画展「墨魂」書人・立石光司の仕事」3月19日(土)～5月8日(日)

【児童・読み物】 境界のポラリス

中島空 著
中国にルーツをもつ女子高生・恵子。自主夜間中学で外国人の子どもたちに日本語を教えている幸太郎と出会ったことで、恵子自身も日本語の先生に…。外国人生徒たちとの友情を描く。

出版社…講談社

【絵本】

ことりのおまじない

おおなり修司 文
丸山誠司 絵
「こ」をとる、ことりのおまじない。やまねこから「こ」をとって、やまねにしたり、こさめから「こ」をとって、そらからさめをふらせたり。ことりは「こ」をたすひみつのおまじないももっています…。

出版社…絵本館

【一般・芸術/美術】 宮廷のデザイン

八條忠基 著
食器、文具・調度、服飾…。皇室で受け継がれてきた、みやびやかでモダンな意匠。有職故実に精通した著者が、江戸から平成までの御下賜品150点以上の由来や文様を写真とともに紹介した、宮廷の文様入門。

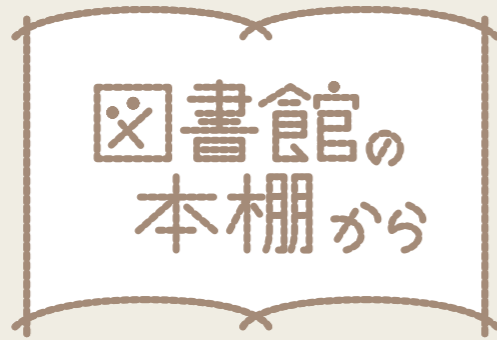
出版社…平凡社

【一般・小説】

君の名前の横顔

河野裕 著
夫を亡くし、小学生の冬明をひとり育てる愛。父親の死後、義母の愛と弟の冬明を見守りながら、家族という関係に違和感を持つ楓。冬明の絵具がなくなった日から、現実が変容し…。血のつながらない家族と名前をめぐる物語。

出版社…ポプラ社



三和図書館

動物のために今できること

中村友里杏さん 三和中学校3年生

私は将来、動物愛護施設を建て動物の命をできるだけ救いたいと思います。目標実現の第一歩として、獣医師免許とトリマーの資格を取ります。

そのためには、専門学校を卒業した上で、獣医学部に入らなければなりません。夢の実現のためにも、基礎学力を高めることが重要だと考えています。しかし、それは並大抵のことではありません。そのため、私の長所である夢を諦めない情熱で、さまざまな困難に挑戦します。そして、努力を惜しまず生活し、絶対に夢を叶えます。



わたしの夢